

教育プログラム・コースの概要

大学名等	慶應義塾大学大学院医学研究科
教育プログラム・コース名	ライフステージ別がん専門リハビリ療法士養成コース（修士課程）
対象者	医学研究科修士課程大学院生(理学療法士・作業療法士・言語聴覚士)
修業年限（期間）	2年
養成すべき人材像	<ul style="list-style-type: none"> ・がんリハビリテーションに関して、ライフステージごとに異なる知識・スキルや病期（急性期、回復期、地域生活期）に応じた実践方法の習得を含めた体系的な教育プログラム・コースを構築し、がん患者特有に生じる各種機能障害を予防、治療するためのリハビリを行える専門療法士(理学療法士・作業療法士・言語聴覚士)を養成する。 ・個々の専門職の特性を生かして、がんチーム医療の中でリハビリを実践する臨床能力を身につけるとともに、腫瘍リハビリ医学に関する臨床研究を実践する能力を身につけ、国際的に活躍し指導的役割を担うリーダーを育成する。
修了要件・履修方法	選択必修科目26単位、選択科目4単位以上、合計30単位以上を履修し、修士論文の審査に合格すること。
履修科目等	<p>選択必修科目26単位、選択科目4単位以上、合計30単位以上を履修し、修士論文の審査に合格すること。</p> <p><選択必修科目>基礎分子細胞学(4単位)、分子細胞生物学(4単位)、医療倫理学(2単位)、分子病態学(4単位)、医科学特別研究(8単位)</p> <p><選択科目>リハビリテーション医学(2単位)、がんのリハビリテーション学(2単位)</p>
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	<ul style="list-style-type: none"> ・2016年12月に改定された、がん対策基本法では、第17条に、「がん患者の状況に応じた良質なリハビリテーションの提供が確保されるようにすること」が追加され、国や地方公共団体においても、がんリハビリテーションに関する施策を推進する方針となった。しかしながら、我が国においては、がん専門医療機関においてすら、がんリハビリテーションが十分実施されているとはいえない。 ・第1期・第2期がんプロにおいても、がんリハビリテーションのコースは、本大学、京都大学、神戸大学のみであり、第3期がんプロにおいて、しっかり推進すべき分野であると考えます。 ・がんのリハビリにフォーカスを絞った修士課程コースは極めてユニークであり、独創性がある。 ・本コースでは、がん患者のライフステージや病期、療養先のセッティング別に、がんリハビリテーションを体系的に学べるという点で新規性がある。
指導体制	<p>指導教授：里宇 明元（慶應義塾大学医学部リハビリテーション医学教室 教授）</p> <p>担当教官：辻 哲也（慶應義塾大学医学部リハビリテーション医学教室 准教授）</p>
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	<ul style="list-style-type: none"> ・本大学博士課程への進学。 ・高度がん専門医療機関へ就職し、各地域におきいて、がんリハビリテーションを実践する指導者となる。
受入開始時期	平成29年6月

受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	理学療法士 作業療法士 言語聴覚士	2	1	2	1	2	8
	計	2	1	2	1	2	8